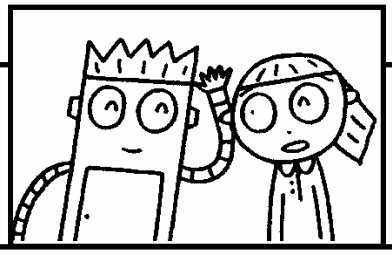
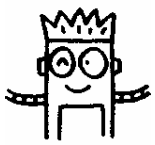
学研教育情報資料センター

社会
学習相談



小／社会／６年／日本の歴史／
平安時代／理解シート

平等院鳳凰堂は、なぜつくられたの



浄土教の信仰にもとづき、極楽浄土や阿弥陀如来を、目で見られる所としてつくられたんだよ。

１０５２年、関白の藤原頼通は、父道長から受けついだ宇治の別荘をお寺に変え、平等院と名づけました。翌年には、阿弥陀如来像を置く阿弥陀堂が完成しました。この阿弥陀堂は、伝説上の鳳凰という鳥が、羽を広げたような形なので、江戸時代の初めごろから、鳳凰堂とよばれるようになりました。

●末法思想と浄土教が広まった時代だった

このころは、釈迦が死んでから２０００年後は、仏法（釈迦の教え）がおとろえて、世の中が乱れる「末法の時代」が始まる、という考え（末法思想）が広まった時代です。その末法は、１０５２年から始まるとされ、人々の間に不安が高まりました。このような時代に、源信という僧が「往生要集」を書き、このよごれた世に生きている自分たちは、おそろしい地獄に落ちる運命にあるが、浄土教の修行をすれば、西方の極楽浄土で往生（生まれ変わること）できる、と説きました。さらに、その修行には、ひたすら念仏をとなえることと、極楽浄土のようすや阿弥陀如来の姿を心にえがくこと（観相という）を、すすめました。

●極楽浄土や阿弥陀如来を見て、心にえがきやすくするために建てた

浄土教は、貴族の間に広がり、極楽浄土や阿弥陀如来の姿を目で見て、心にえがきやすくするような建物・絵・彫刻などが、さかんにつくられました。病気で苦しんでいた藤原道長も、自宅の東どなりに、無量寿院という阿弥陀堂を建て、さらに金堂などの華やかな建物を建てて、極楽浄土のような法成寺をつくりました。頼通も、道長と同じように、極楽浄土での往生を願って、極楽浄土のようすや阿弥陀如来の姿を見て、心にえがきやすくするために、鳳凰堂を建てたのです。

無断複製：転載：翻訳を禁ず Gakken